

■受験校って、どうやって決めるの？

群馬県内にある数校の選択肢から受験校を決める高校入試と違い、大学入試は全国にあるたくさんの大学の中から受験校を決めることになります。当然選択肢も様々です。そこで、今回は多くの選択肢のなかからどのようにして受験校を決めていくのか、ということについての基本的な考え方をまとめてみました(今日の3学年集会での話とリンクさせています)。戦略的な話にもなるので1・2年生にとってはピンとこない部分もあるはずですが、3年生になったときの予習のつもりで考えてほしいと思います(ここでは一般入試を念頭においています)。

受験校を決める最大の決め手は当然「そこに自分の学びたいことがある」ことです。ですが、全国を視野に入ればその希望を満たしてくれる大学は結構たくさんあります。もしかしたら「やりたいこと」がいくつもある人もいるかもしれません。そうなると、更に候補となる大学は増えるでしょう。その大学に合格するために必要な力(難易度)も様々ですが、1・2年生のうちは研究のレベルや環境などを考えれば目標は高めに設定しておくべきでしょう。ただ3年生になるとそこに現実的な要素(つまり、学力)が入ってくるため、自分の実力と目標をすり合わせていく作業が必要になってきます。特に共通テストと個別試験の成績の合計で合否が決まる国公立大の場合は、共通テストの結果をもとに出願校を決めるわけですから、共通テストの結果により複数の選択肢を用意しておく必要があります。その際に目安として考えるのが

α プラン・β プラン・γ プラン

です。

受験候補校は、現在の学力と比較すると、

- ・ **目標校** (もう少し頑張っって何とか届けたい)
- ・ **実力相応校** (このまま行けば受かりそう)
- ・ **安全校** (多少失敗しても合格が見込める)

の3グループに分けられます。模試判定だと目標校はC~D(E)、相応校はB~C、安全校はA~Bといった感じでしょうか。当然一番行きたいのは目標校のはずですよ。

受験計画を作るにあたっては、このことを念頭に置いて受験校の準備をしておくのです。つまり、共通テストを受験した結果、

- ・ 想定通りの好結果なら、α プラン(挑戦!)
- ・ やや想定を下回ったら、β プラン(相応校)
- ・ 想定をかなり下回ったら、γ プラン(安全校)

としておくことになります。

例えば北海道大(文)を第一志望としている生徒が考える受験プランの一例としては

	α プラン	β プラン	γ プラン
共通得点	76%~	70~75%	~70%
前期	北海道大(文)	千葉大(文)	新潟大(人文)
後期	信州大(人文)	新潟大(人文)	山形大(地域教育)

東北大(工)を第一志望としている生徒が考える受験プラン例としてはこんな感じでしょうか。

	α プラン	β プラン	γ プラン
共通得点	80%~	70~80%	~70%
前期	東北大(工)	千葉大(工)	埼玉大 群馬大
後期	埼玉大(工)	群馬大(理工)	群馬大(理工)

注:あくまで一例であり得点率等は仮の数字です。

ここで大事なのが、「共通テストを受験する前に3パターン考えておく」ことなのです。共通テストが終わればすぐに私大受験が始まり国公立大受験まで怒涛の1か月を迎えます(特に今年は共通テストから前期入試までの期間が短い!)。そのスタート時に、「共通テストちょっと失敗したー、さてどこを受けるか」と初めて考えるようでは貴重な時間を大きくロスします(迷っている時間が勿体ない!)。自己採点の結果が出たら機械的に(言い方は悪いですが)志望校を決められて(そして、腹をくくって)すぐに受験の準備を始めることが大事。そのために2学期のこの時期に「あらゆるパターンを想定しておく」ことに意味があるのです。

第一志望の大枠が決まればあとは後期の受験校と私大の受験校。前期試験が不合格だった場合は私大合格校の最上位校と後期国公立大との比較になりますが、「できれば国公立」の優先度が高い場合は後期の大学も当然きちんと考えておく必要があります。近年後期試験を実施する大学は減少傾向にありますが、少ない選択肢の中から選ぶことになりますので選択は意外に難しいものです。基本的には前期受験校との兼ね合いになりますが、

**前期でややチャレンジ→後期は手堅く
前期で堅実→後期も同程度または手堅く**

というのが基本線かと思われます。

そして最後は私大の受験校です。「国公立一本なので私大は行かない」という人もいるかもしれませんが、最優先の国公立大の受験を優位に進めるためにも私大受験は有効に使いたいものです。メリットは

- ・緊張感のある会場での受験で場慣れができる
- ・1つの合格が心の安定を生み出す
(この時期としては最高の御守りになる)

ことなどでしょう。本命校の受験までに合格校が1つもない、というのは思いのほかキツイんだよね(と、経験者は皆口を揃えて言います)。負担を減らすための共通テスト利用受験や、地元(前橋・高崎)で受験できる私大もたくさんあります。12月入試で合格を1つ取りに行くというのもひとつの手です。私大の受験は、日程や方式など、それこそ無数の選択肢が発生しますので、実は国公立大以上にスケジュール管理が重要になります。私大受験プランのポイントとしては

- ①共通利用入試を活用して日程に余裕を設ける
- ②基本的には易→難の順に受ける
- ③受験日程には適度な間隔を空ける
- ④自分に有利な受験方式、試験日を選ぶ
- ⑤受験期間も学習時間を確保できるようにする

などが挙げられます。また、手続きや入学金支払い期限なども考えて、なるべく経済的な負担が少なくなるようにもしたいものです。そのために必要になってくるのが「受験カレンダー」です。出願期間・試験日・合格発表日・手続き締切日などを一覧にまとめることで、受験期間の生活の見通しが明確になります。今はスマホのアプリ等で管理もできますが、やはり自分の手で作成し(何度も書き直しながら)、常に携行している、ということにも意味があります。私大受験校については「みちしるべ」に過去の前女生が受験した私大ベスト20が載っていますので参考にしてみるのもよいでしょう。

結論としては、「綿密な事前準備が余裕のある受験を生む」ということでしょうね。

■TEAM-OGからのメッセージ

前女生のみなさん、チーム東北大医学科です。2年のK先輩と、1年のYがお届けします。まずはK先輩から。

大学2年生から気持ちの面でアドバイスです。この時期は学年の中間で疲れも出やすく、試験も多いので、メンタルを安定させるのも大変な人もいます。そ

んな時期こそ踏ん張れると、受験本番や大学入学後の糧になります。私にとって受験本番は過去のどの試験よりも重圧が大きかったのですが、疲れても耐えて勉強したり、模試や定期試験を全力で受けたりしてきた過去を思い出し、意地で乗り切れました。また私は医学部生なので大学のテスト勉強も大変で、毎テスト前に結構メンタルがやられます。辛くなった時も、高校生の時あれだけ頑張っていた自分がここで挫折する訳にはいかないと思えるので、多くの方は受験勉強が柱である高校生活で頑張る価値は今後のためにもなると思います。先の不安よりも過去の努力に自信を持っていてくださいね！」

次に私から。3年生のみなさん。まず、勉強面について。私は、応用問題をできるようにする、のではなくて、基本問題を確実に解けるようにする、ということを目指していました。また、新しい問題を沢山取り組むことより、一度解いたことがある問題を確実に解けるようにすることを目標にしていました。そのため、重要問題集や、学校で取り組んだ問題を繰り返し解いていました。やるべきことを明確にしていたので、判定は安定して悪かったですが、落ち着いて勉強に取り組みました。

それでも、焦りと不安で辛いことはありました。そんな時は担任の先生に相談し、励ましてもらいました。友達とも不安を共有しました。模試が終わったら、毎回マックフルーリーを友達と食べて、リフレッシュしました。放課後友達と勉強した後は、毎日セブンのおでんを食べて心と体を温めていました。(廊下勉強派だったので、寒かった)。お昼は友達と化学の暗記問題を出しながら食べました。土日の朝は1人だと起きられないので、朝6時に友達と電話してました。

確かに受験勉強は辛いですが、目標に向かって努力できる素敵な時間だと思います。辛い中でも、楽しいことを見つけたり、友達と馬鹿話したり、友達と一緒に考え抜いた先に理解できた喜びは、計り知れないものでした。

受験が終わった時に、これで落ちたら自分には縁がなかったんだな、と思えるくらい、全力で、後悔のないように頑張ってください。私にとっての受験は、周りの人に支えてもらいながら、目標に向けて突き進んだ、かけがえのない思い出です。

AO入試は2度落ちました。本番は、周りの人が頭良さそうに見えて気が弱くなってしまいました。面接も圧迫気味で、よくできませんでした。AOⅡ期で素敵だな、と思った子は、今では仲良しですし、圧迫気味の面接官から今は遺伝学や医化学を学んでいます。推薦はチャンスです。全力で取り組むけれど、失敗しても前期で合格すればいいので、切り替えて頑張ってください！